



デニス神父様のお話し

皆さん、今日は沖縄の「慰霊の日」を迎え、戦争の犠牲となった方々を思い起こし彼らの冥福を祈りながら、真の平和とは何か、平和の大切さを考える貴重な機会だと思います。

誰でも人は心の底では平和を望んでいます。全ての人が平和を望み求めているのです。

このように皆が求めている真の平和とは一体何でしょうか？

平和とはただ単に安全、保障条約などによって戦争のない状態や安全な生活が保障されているということだけではなく、自然、隣人そして神様と和合し、自分自身も心の平和を保っている状態と言えるでしょう。

20世紀は戦争の世紀とも言われ、21世紀は切実に平和が期待されております。

「戦争は人間のしわざ、平和は正義のわざ、愛の実り」と私たちはいつも歌っています。

自分で持っていないものを他人に与えることが出来ないと言われてるように、人の心の中に平和がなければ人々と冷静に交わることも困難です。

平和はまず人の心の中に生まれ、それを周りの人々と広げていくことが出来るのです。

イエス様の教えの中で一番中心である「山上の説教」で幸い、あるいは幸せになれる方法が述べられています。それは柔和な心をもつこと、正義のために餓え渴くこと、憐み深い人になること、清い心をもつことと、平和を実現するために働く人たちのことです。

平和を実現するために正義に満ちた言動が不可欠です。正義の言動というのは、他者の権利を認めることです。一人ひとりに生きる権利があり、自分の考えを発信し、信じる神様を礼拝する自由があると認識することです、言語・文化・国籍・習慣などを認め合うことによって愛、赦しと平和の輪が広がっていきます。

1981年に当時カトリック教会最高指導者であったローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が来日しました。広島において平和メッセージを発信したとき、「過去を振り返ることは将来に対する責任を負うことです。」と述べました。若者たちに向かって「共に手を取り合って友情と団結のある未来をつくりましょう。あなた方の若い精神は善と愛を行う大きな力を持っています。」と申しました。

今日、慰霊の日を迎えて、戦争の犠牲者のために祈りながら、過去の歴史から戦争の悲惨さを思い起こし平和の重要性を意識しましょう。

私たちに今できることは何かと考えながら、仲間をかけがえのない人として受け入れること。同じクラスの友達と仲良くし、相手の気持ちも大切に考えましょう。

相手を理解し、受け入れることによって、寛大な心を育てていき、平和のために働く決意をいたしましょう。

